高まっており、日本のスイーツ人気も上昇している。

マレーシアの首都クアラルンプールに10和菓子のほかリーフパイなどの洋菓子も扱っている。

海外では主に台湾や米国を中心に店舗を拡が人気とあって、特にどら焼きが好評だという。

北海道の洋菓子製造業者も商品売り込みをミニョン（函館市）は9月、シンガポールの市内のショッピングセンターに海外1号店を開き、ケーキ類を販人気の一方で、道産の食材を使用した高品質の洋菓子を出す店が少ないので出店した」と話している。

動きもある。9月にクアラルンプールで開催された食品見本市では、高知アイス（高知県いの町）がイスラムラル認証の取得も考える」と話す。将来的にはインドネシアや中東の市場も視野に入れているという。

ミトモ 地震に強いタイル工法

金具で接着、施工短縮

製品は、タイルの裏側に金具を取り付け金属のバーに引っかけて接着する。耐震や破損防止に役立つ

建築施工のミトモ（阿見町荒川本郷、坂野浩勝社長）は、耐震性能の高いタイル張りの新工法「ガチロック」を開発した。タイルの裏に取り付けた金具と、壁面の金属レールを組み合わせて接着する方法で、大きな揺れに強いほか、従来工法よりも施工時間が3分の1から5分の1で済む。大震災では高層ビルの外壁やホテルの吹き抜けの壁が落ちる被災が多かったことから、需要が見込まれる。岐阜県のタイル生産業者らと協力し販売を広げる。

ガチロックは、正方形のタイル（30㌢角、厚さ9㍉、重さ1・6㌔）裏面に刻んだ溝に十字型の専用金具（ステンレス製）1個をはめこみ、建物の壁面に水平に張った金属レールに組み合わせる。併せて開発した弾力のある特殊接着剤を使ってタイルを壁面に接着。タイルの裏面には樹脂製の網も張り付け、破損時の飛散を防ぐ。

これにより、地震などの災害時にタイルの破損や落下も防ぐ。

従来の工法は接着剤でタイルを接着し、タイルの一部にクギを打つだけだったため、落下しやすい。高層ビルの場合、エレベーターの長年の振動で壁が崩れ、落下する危険もあるといい、落下防止はタイル工法の課題だった。

タイルの大きさは60㌢角や1㍍角もあり、金具は2～3個に増やす。同社は岐阜県多治見市周辺のタイルメーカーや施工協力会社約40社と組み、販売会社「ガチロック」を設立。同社は受注に応じて金具を供給し、販売は一手にまかせる。

同社は開発に当たり、国土交通省や経済産業省の補助金を受け、昨年7月、商標登録し、特許も申請中。

首都圏のビルなどで受注が始まり、今後も改善を重ねる。商社と組むほか、国内や海外の技術展示会に出展し、販売を広げる考えだ。

同社はタイル施工会社として1992年設立した。（綿引正雄）

経営トップの発言集

■消費増税を警戒

日野自動車の市橋保彦社長（61）は、来年4月の消費税増税について「影響はゼロではない」と警戒する。増税前の駆け込み需要が予想される一方で、その後は反動で販売が落ち込む可能性がある。

1997年の消費税増税後も、自動車販売は長期間低迷した。自動車には消費税以外にも自動車取得税などが課されており、消費者の負担増を懸念する。「こういうところをよく考えて（税制改革を）進めてほしい」と政府に求めた。

■うまいもん

インターネットを使った特産品の開発支援サービス「うまいもんプロデューサー」を電通とともに全国で始めたネット接続サービス大手ニフティ。三竹兼司社長（54）は「全国でまだ注目されていない『うまいもん』を発掘し、地方の活性化につなげたい」と話す。

消費者がネット上でアイデアや意見を出し、プロデューサー役となって商品開発や販売を進める仕組み。「日本国内だけでなく、世界にまで販売を広げていきたい」と語った。

JA、JFカード ATM利用のコンビニ拡大 18日から

農林中央金庫はJAバンクとJFマリンバンクのキャッシュカードが18日から、新たにローソン、ファミリー

自動運転や環境分野など最先技術をアピールする。

都内で記者会見した豊田男会長（トヨタ自動車社長）は「2020年の東京五輪開催決定で世界が再び『東ブランド』を注目している。（東京モーターショーは）世